

## 衛星追跡で明らかになった オオハクチョウの渡り経路

嶋田 哲郎

989-5504 宮城県栗原市若柳字上畑岡敷味 17-2

(公財) 宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団

2009～2012年に東京大学樋口広芳研究室(当時)とアメリカ地質調査所を中心としたオオハクチョウの大規模な衛星追跡が行われました。ここでは、衛星追跡によって明らかとなったオオハクチョウの渡り経路の概要を述べます。

衛星追跡を47羽のオオハクチョウで行いました。北海道の屈斜路湖で2009年1月に14羽を捕獲し、宮城県の伊豆沼・内沼周辺で2009年2月に28羽、2010年1月に5羽の計33羽を捕獲し、衛星送信機を首輪に装着しました。

春の渡りをみると、伊豆沼のオオハクチョウは2月下旬から3月上旬にかけて北上を開始しました(図1)。岩手県や青森県を經由し、北海道西部から北部へ移動した一部を除き、すべて北海道東部に移動しました。その後、カムチャツカ西岸に向かった少数個体を除いてすべてサハリンに向かい、サハリン北部やアムール川河口周辺に滞在しました。さらにオホーツク海を縦断して、オホーツク海北部沿岸地域を經由した後、コリマ川やインディギルカ川の中～下流域に到達しました。屈斜路湖のオオハクチョウは4月中旬から5月上旬に出発し、伊豆沼から北海道東部を經由した個体と同様な経路をたどってロシア北東部まで北上しました。ロシア北東部への到着は5月中旬から6月上旬でした。

伊豆沼のオオハクチョウは86日かけて3,800kmほどを、屈斜路湖のものは37日かけて3,100kmほどを北上しました。ロシア北東部に到達後、繁殖地及び換羽地周辺で111～135日ほど滞在しました。

秋の渡りでは、オオハクチョウは9月下旬から10月上旬に渡りを開始し、伊豆沼と屈斜路湖のオオハクチョウともに春の渡りと同様な経路をたどって南下しました

(図2)。オホーツク海を渡り、サハリンやアムール川河口周辺を經由した後、屈斜路湖のオオハクチョウは北海道東部に、伊豆沼のオオハクチョウは宮城県に到達しました。越冬地への到着は、伊豆沼のオオハクチョウで11月下旬から12月下旬、屈斜路湖のもので10月中旬から11月上旬と、屈斜路湖で1ヶ月ほど早く到着しました。

渡り経路は春と秋で同様でしたが、中継地は少し異なっていて、秋の渡りではオホーツク北部沿岸地域を通過し、また伊豆沼のオオハクチョウの多くは北海道を經由しないで宮城県に渡りました。伊豆沼のオオハクチョウは54日かけて3,500kmほどを、屈斜路湖のものは40日かけて3,000kmほどを移動しました。

この研究によって、岩手県北上川、北海道東部の風蓮湖、網走湖、野付半島、アムール川河口、サハリンのアニワ湾とサハリン湾、オホーツク海北部沿岸地域が重要な中継地として、コリマ川やインディギルカ川の中～下流域が重要な繁殖地及び換羽地であることが明らかとなりました。

衛星追跡は渡り経路、越冬地、中継地、繁殖地とその種のフライウェイ内の重要な生息地を明らかにします。フライウェイ内での重要な生息地での個体数の分布や増減を通して、生息地の相対的な重要性などを評価することもできます。それによって、国内及び国際的な協同の中で適切な生息地管理につなげていくことができるのです。

#### (原論文)

Shimada, T, Yamaguchi, N. M., Hijikata, N., Hiraoka, E., Hupp, J. W., Flint, P. L., Tokita, K., Fujita, G., Uchida, K., Sato, F., Kurechi, M., Pearce, J. M., Ramey, A. M. & Higuchi, H. 2014. Satellite tracking of migrating Whooper Swans *Cygnus cygnus* wintering in Japan. *Ornithological Science* 13: 67-75.

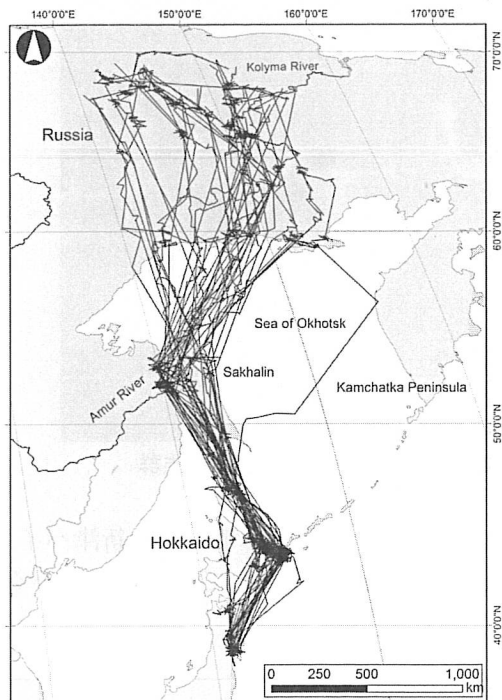


図 1. 2009 年のオオハクチョウの春の渡り。

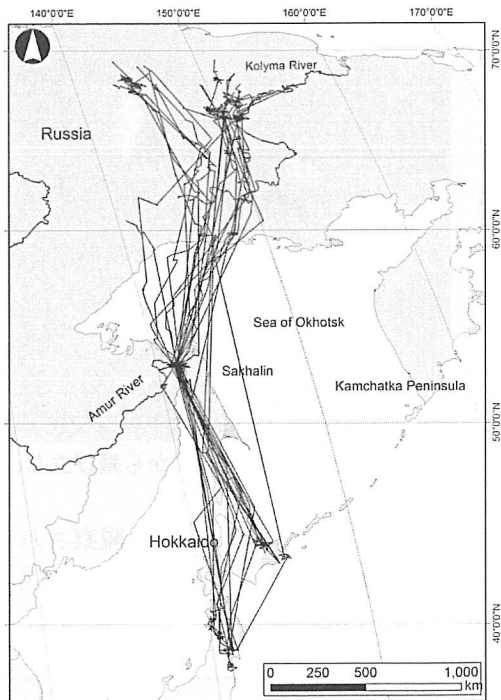


図 2. 2009 年のオオハクチョウの秋の渡り。